

特集2

新聞メディアと文学 明治20年代

大貫俊彦（おおぬき・としひこ）

千葉工業大学教育センター助教。専門は日本近代文学、明治文学。文芸批評家時代の内田魯庵（内田不知庵）を中心に、日本近代文学の成立期に生じた様々な文学論について研究している。

大橋崇行（おおはし・たかゆき）

東海学園大学准教授。専門は日本近代文学。主な著書に『言語と思想の言説 近代文学成立期における山田美妙とその周辺』（笠間書院、二〇一七）。共編著に『ライトノベル・フロントライン』（山中智省と共編。全3巻、青弓社、二〇一六〜一七）などがある。

木村洋（きむら・ひろし）

上智大学准教授。専門は日本近代文学。著書に『文学熱の時代——慷慨から煩悶へ』（名古屋大学出版会、二〇一五）がある。民友社、自然主義などに興味を持っている。

出口智之（でぐち・ともゆき）

東京大学大学院准教授。専門は明治時代の文学と美術。主な仕事に『幸田露伴の文学空間』（青簡舎、二〇一二）など。小説・紀行・随筆・史伝などのジャンル横断的表現史、明治文人のネットワーク研究、口絵・挿絵研究の三本を柱として、明治文化について考えようとしている。

富塚昌輝（とみづか・まさき）

徳島大学准教授。専門は日本近代文学。主な仕事に『近代小説という問い——日本近代文学の成立期をめぐる』（翰林書房、二〇一五）がある。最近では、明治期に徳島で発行された新聞の新聞小説にも興味を持っていて、そうしてみると東京の新聞小説も一地方新聞のそれなんだからなんて当たり前のことに驚いたりしている。

松原真（まつばら・まこと）

本研究科准教授。専門は日本近代文学、明治文学。主な仕事に『自由民権運動と戯作者——明治一〇年代の仮名垣魯文とその門弟』（和泉書院、二〇一三）。最近では、近代と接触したときの小説（物語）の右往左往の仕方に興味を持っている。